

◆ 11月号の予定 ◆

特集 「加速する少子化」

昨2024年の日本の出生数は68.6万人、合計特殊出生率は1.15と大幅に下降し、いずれも過去最低を更新した。記録更新が耳慣れた少子化だが、実はこの10年で年間出生数は約2/3に急収縮し、危険水域に入った。「静かな災害」へと進むこの新たな段階の少子化現象について、あらためて現時点だからいえることは何か。それをもたらしている原因やメカニズムの正体や影響と対策、そして持続可能性と対峙する現場、地域について、最前線の専門家たちとともに考える。

論考・論文

- ・少子化加速のメカニズムと出生力の将来見通し
- ・経済学で考える少子化の原因と対策
- ・わが国の少子化の背景要因と少子化対策に求められる観点
- ・地域の出生率への理解をふまえた今後の地域政策への期待

寄稿

- ・年金データでみる賃金動向―詳細な全数データでプレの大きい既存統計を補完できる可能性―

統計ウォッチング

- ・日本政治の四分五裂、ポピュリズム政策が債券自警団を呼び覚ます

統計寸評

- ・複数領域統合型世帯調査について

連載

- ・滋賀大学におけるデータサイエンスの産官学連携 (8) ―スポーツ×データサイエンスの可能性―
- ・労働力調査の80年 (8) ―フローデータからわかること―

統計利活用コーナー

- ・第9回地方公共団体における統計データ利活用表彰 (2024年) 特別賞 栃木県真岡市
英国王立統計学会機関誌Significanceから

- ・Dorling Danny 著

“World population projections: Just little bits of history repeating?” 抄訳と解説

書評

- ・永瀬伸子 著 『日本の女性のキャリア形成と家族 雇用慣行・賃金格差・出産子育て』
-

◎ 「特集」のテーマ (2025年1月号～2025年12月号)

- 2025年1月号 ― 令和7年国勢調査への期待-実施年の幕開け-
- 2月号 ― 社会保障分野のEBPM
- 3月号 ― これからの農林統計の展望
- 4月号 ― 国際貿易(1) 貿易構造の変化と課題
- 5月号 ― 国際貿易(2) 経済・食料安全保障の観点
- 6月号 ― わが国のコーポレート・ガバナンス
- 7月号 ― 令和7年国勢調査の意義と役割
- 8月号 ― 行政情報のマイクロデータ研究
- 9月号 ― 税務情報のマイクロデータ研究
- 10月号 ― 公的統計のマイクロデータ研究
- 11月号 ― 加速する少子化
- 12月号 ― 日本発の統計的方法

(注) 「特集」のテーマは、社会経済の動向により見直す場合もあります。

◎ 連載

- ・国際統計制度とは何か
…2021年1月号から隔月
2025年3月号まで連載
- ・高校における統計・データサイエンス教育の最前線
…2021年7月号～毎月12月号まで
2023年1月号～毎月7月号まで
2024年3月号～
2025年2月号まで連載
- ・2025 SNAの最前線
…2023年4月号から隔月
2024年2月号まで連載
- ・データサイエンスの産官学連携
…2025年4月号から毎月
- ・労働力調査の80年
…2025年4月号から毎月